



馬耳東風

最近話題を集めた京成線崖っぶちの子ヤギ「ポニョ」は、宮崎 駿監督の作品にちなんで名づけられたが、ヤギの習性上崖の生活はお手の物といいながらも、線路脇の心配を他所にせつせと崖草を食べていた。ヤギ仲間と集まる習性を利用して2カ月半ぶりに飼い主に戻りほったした。ポニョの無心に草を食む姿は、のどかで愛らしくメディアでも紹介された。崖の構造が住み心地をよくしていたようだ。西武線武蔵横手駅のヤギは風情に人氣があり、広い保線草地の機械刈りと比べて年間176キログラムのCO₂削減効果があるという。電車が着く度に姿が目立ち、お客さんから情報が寄せられる。高齢の雌ヤギの足が痛そうだと、おばあさんから教えていただいたと、時々新卒若手の女性保線員のマッサージを受けて余生を送っている。石灰岩採掘で有名な武甲山(1,304m)のふもとにスローライフを目指して移住した若いご夫婦は、登山客相手のカフェを営みヤギ達が出迎え、周りの除草もしてくれる。先日1匹がイノシシに襲われたようで太股を骨折したが今は元気に飛び跳ねている。ヤギのチーズもメニューに加えた。武州と甲州を雁坂峠で結ぶ甲州裏街道(秩父往還)の江戸時代「入鉄砲出女」監視の栃本関所跡近くの限界集落? に、薪割りが楽しいという青年が移住し、林業の傍ら子ヤギ2頭と住んでいる。青年の後を追いかける一体化した行動は実に愛らしい。クマの出没が心配だという。集落の人気者だ。

「雑草という草はない」昭和天皇が植物学者・牧野富太郎博士から引用したお言葉だ。どの草もそれぞれに名

前があり懸命に固有の花を咲かせる。踏まれても踏まれても生き続ける強さたくましさ、人生を情緒たっぷりに「日本に生まれた古い血が流れ、おてんと様が照らしてくれた」セリフが体の芯に浸み込む美空ひばりの名曲「雑草の歌(1967)」は演歌の真骨頂だ。まさに、雑草の強靱な繁殖力は天から授かった宝物だろう。日本の四季の変化は、適応能力に多様な変化を生む。タンポポの実の風に乗れやすく飛びやすい姿形は、それこそ天からの授かりものだ。小さな木の実を鳥が啄み、雑草の群落で小さな芽を出す。オオバコの種子はぬれると粘りつき足裏に付着して運ばれ路上で群生する。尾瀬沼の木道脇で繁殖し駆除に大変な苦勞を強いられている。果実の芒を持つセンダングサの実は、衣服にくっつきやすく人と一緒に広く移動する。はたいても取れず指で摘みながら取り除く。ヨシやアシのような川原の草は水流に乗って運ばれる。ヒガンバナは三倍体染色体で、種子無し栄養繁殖で真っ赤な群落をつくり観光地化する。日高市の巾着田が有名でヤギは食べない。農耕地の雑草退治は、手でむするか鎌で刈り取るかトラクターでかき回すが、省力雑草管理で除草剤が汎用され、そのストレスで群落の遷移や除草剤抵抗性が備わってきた。米国では除草剤と遺伝子組換え除草剤抵抗性作物が開発・利用されているが、抵抗性雑草がグリホサート剤で出現し、優先雑草相の変化が見られるそうだ。青刈りトウモロコシ畑は雑草よりいかに早く丈を伸ばすかだ。生態系への混乱が起これないという保障はない。自然と暮らすヤギの事例をいくつかあげてみた。ペットを兼ねたヤギに、雑草に強い交雑種が増えてきたようだ。(柏)